ラリグラス・ジャパン 2020 リポート

～ネパール・インドの女性と子どもの未来のために～

2020 年 11 月

認定法人 ラリグラス・ジャパン（LJ）

〒108-0072 東京都港区白金 3-10-21
TEL＆FAX:03-3446-2193
E-mail:info@laligurans.org　http://www.laligurans.org

は じ め に

いつも私どもの活動にご協力いただきありがとうございます。

コロナという予想もしなかった災禍に見舞われ、皆さまもご不安やご不便の中でお過ごしのことと思います。

ラリグラスも、春の調査とスタディツアーを見送らねばならず、現在も現地に赴く見通しも立っておりません。毎年 10 月に開催されるグローバルフェスタも中止となり、今年度は活動計画を大幅に修正せざるを得ない状況です。パートナー団体であるマイティ・ネパール、ＮＤＷＳ、レスキュー・ファンデーションの活動も、多くの制約を課せられています。

コロナ禍の影響により、女性と子どもに迫る危険はさらに深刻なものとなっています。今回のレポートでは、コロナ危機にあるネパールとインドの実情と、厳しい環境下で尽力するパートナー団体の活動状況についてご報告させていただきます。

ラリグラス・ジャパン

感染予防のため、「距離をとってください」と書かれたポスターを掲げるマイティの子どもたち

【コロナ対策プロジェクトへのご協力のお願い】

コロナ禍により、社会的弱者はさらなる窮地に追い込まれています。もっとも打撃を受けたのは低所得者層です。

人身売買犯罪が起こる原因の 1 つは貧困です。自然災害後、人身売買犯罪が増加するといわれていますが、今回のコロナ危機後も女の子たちが児童労働や強制売春の犠牲になる危険が高まると予想されます。

しかし、私たちが直接現地に赴き、活動することはできません。パートナー団体に委ねるしかすべはなく、もどかしいばかりですが、現地団体のスタッフには長年培ってきたノウハウがあります。現時点でも、素晴らしい活動をしてくれています。そうした彼らの活動が滞ることのないよう、後方支援することが、今、私たちに求められていることなのだと考えています。

そこで、「コロナ対策プロジェクト」として、1 口 1000 円の指定寄付を設定させていただきました。寄付金は、生活困窮者への支援物資および感染予防の啓発キャンペーンの費用に充てさせていただきます。

どうぞ、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

	郵便口座・銀行口座
郵便振替	口座番号：　００１００－５－７１３６６１ 加入者名：　トクヒ ） ラリグラス　ジャパン ※銀行振り込みの場合 銀行名：ゆうちょ銀行 支店名：〇一九（ゼロイチキュ）店 (019) 口座番号：当座　０７１３６６１
銀行振込振替	銀行振込　　銀行名：　　三菱東京ＵＦＪ銀行 支店名：　　麻布支店（店番：570） 口座番号：　普通預金　０１５８０５４ 振込先名義：　トクテイヒエイリカツドウホウジン ラリグラスジャパン ※特定非営利活動法人としての口座です。
銀行振込	銀行名：　　三菱東京 UFJ 銀行 支店名：　　新宿中央支店 口座番号：　普通預金　４８５００６１ 振込先名義：　ラリグラスジャパン　ヨシダクミコ （ネットバンキングの場合、空白はカウントされません。） ※当面はこちらの口座も継続します。

目　次

は　じ　め　に 2
【コロナ対策プロジェクトへのご協力のお願い】 3
現地報告 5
　マイティ・ネパール本部 5
　レスキュー・ファンデーション 12
　ネパール障がい者女性協会（NDWS） 16
イベント・その他の活動（2019 年 10 月～2020 年 9 月） 18
2020 年度決算 20
2020 年度事業計画 27
会員・寄付者リスト 29
　【会員】 29
　【寄付をしてくださった皆さま】 30
　【ボランティアとして活動に参加してくださった皆さま】 30
　【理事・役員】 31

現地報告

マイティ・ネパール本部

【ネパールのコロナ感染状況】

■ネパール初の新型コロナウイルス感染が報告されたのは 1 月 24 日。武漢に留学していた 32 歳の男性が帰国後に体調を崩し、検査の結果、感染が判明したというものである。その後、さほど感染者数の増加は見られなかったが、5 月下旬からインド国境付近で感染が一気に広がる。この地域に暮らすイスラム教徒の住民がインドで感染し、モスクを訪れた際に拡大させたのだ。

ネパールとインドの国民は、パスポートやビザ不要で往来できる。そのため、国境付近に暮らす人たちは頻繁に行き来している。もちろん、ネパールもインドも国境封鎖していたのだが、1500 ㎞もある国境を完全に取り締まるのは不可能だ。監視の目をかいくぐり移動してしまうのは、人身売買犯罪と同じ仕組みである。

ネパールとインドの国境は、パスポートやビザ不要で往来できるオープンボーダーだ

■6 月に入ると、都市部で感染者数の顕著な増加が見られるようになった。全国の感染者は、11 月 16 日現在、209,776 名に達し、死亡者数は 1,221 名となった。

感染拡大の最たる原因は、前述のように隣国インドとの往来を完全に封鎖できなかった点にある。衛生環境がよくないことも一因だ。たとえばカトマンズでは慢性的な水不足が問題となっている。そのため､多くの市民はシャワーを毎日浴びない。シャワーや洗顔後、手洗い後のタオルを家族で共用し、衣類も頻繁には洗濯せず着まわしている。もともとハンカチを携帯する人は多くはないが、持っていたとしても洗濯せず使いまわすのである。

また、慣習の変化も感染リスクを高めているといわれている。両手を合わせ「ナマステ」というのがネパールの本来の挨拶だ。しかし昨今は、欧米スタイルを真似て、握手やハグをする人が増えている。その他、お札を数える際に指を舐める。ロティ(ネパールのパン)や輪切りのきゅうりやダイコンといった付け合わせの生野菜を素手で給仕するなど、ネパールの生活習慣は感染予防の点において非常にリスクが高い。しかも、こうしたことが危険だということをそもそも知らない人がとても多いのである。

カトマンズ市内で行われる PCR 検査の様子

■ネパール初の新型コロナウイルスによる死亡者が出たのは5月のことだ｡カトマンズから約90km、人身売買が盛んな地とされるシンドパルチョークの 29 歳の女性である。5 月 6 日にカトマンズの病院で出産し、翌日村に戻ったのだが、発熱と呼吸器症状が出た。しかし、農村部の医療サービスはぜい弱だ。別の病院に移そうと考えたが、移動の途中で亡くなってしまい、検査の結果、コロナ感染が判明した。

この時点においてネパールで行われた検査は 10 万件に満たなかった。そのため、専門家は「この女性のケースが初の死亡例だとは思えない。同じような症状で死亡した人は他にもいたが死因は特定されていない。新型コロナウイルスによる死者が見逃されている可能性がある」と話し、より多くの検査と接触者の追跡が求められていた。

■政府はカトマンズ市内に、新型コロナウイルス治療向けに 7 つの病院を指定している。しかし、8 月中旬時点で満床の状態にあり、無症状患者を自宅療養に切り替えた。結果、多くの患者が自宅療養をすることになったのだが、前述のとおり、ネパールの衛生環境はよくない。また、十分な教育を受けていない人は、感染予防の知識を備えていない。よって、家庭内での感染が広がったのである。

■こうした状況を受け、カトマンズ市は感染者の濃厚接触者を追跡するため 5 つのチームを結成した。各チームは、保健省のガイドラインに従って臨床検査技師、公衆衛生担当官、救急救命士の 3 人から構成されている。しかし人員不足のため、各チームに 2 人しか配置されておらず、濃厚接触者の追跡が困難な状況だ。また、民間検査機関とネパール健康研究評議会によって、ウイルスの遺伝子調査が開始されることになった。検体は欧州やインドなどから帰国した人々から収集される予定である。この調査結果から様さまざまな国に由来するウイルスの毒性を理解し、ネパールに適したワクチンを知るのにも資すると見られているのだが、この分野においても人員不足は否めず、かなり長期的な取り組みになるといわれている。

■アラブやインドへ出稼ぎに行っていた人たちが帰国したこともさらなる感染拡大の原因といわれている。帰国者は、政府の要請を受けたゲストハウスにおいて 2 週間の滞在を義務付けられているのだが、ルールを守らず故郷に帰ってしまう人が後を絶たない。宿泊費が個人持ちであるため、経済的な負担を避けるため飛び出してしまうのだ。こうした人たちの中に少なからず陽性者が存在し、故郷で感染を広げているといわれている。

【ネパールの経済状況】

■感染が拡大する中、ネパール経済は大きな打撃を受けている。たとえば、ロックダウン中、民間企業は平均 4 分の 1 の雇用を削減した。特にホテル・レストラン産業の失業率は 40%と最も高い値を記録している。給与も平均で 18.2%削減されており、ホテル・レストラン業界となると 36.4%と大幅に削減されている。

■輸出入においても大きな影響が出ている。今年度の高付加価値製品の輸出額は前年度比 18.65%減、日本円で約 301 億円に留まった。インド、アメリカ、ヨーロッパなどの主要な輸出先からの注文が大幅に減少したことが原因だ。一方、農産物輸入額は、過去最高の約 2,500 億円に達した。輸入総額に占める割合の 21%である。10 年前の農産物輸入額は 444 億円だったため、約 6 倍に増加したことになる。結果、食料品の物価が高騰し、一般家庭に大きな打撃を与えることになった。貧困家庭にとっては、食べるものも十分手に入れられない状況にある。

■ネパール政府は、今年度の経済成長率の予想を 8.5%から 2.27%に大幅に引き下げた。中央銀行は、コロナの経済的影響を約 1,680 億円とする見解を発表している。

ネパールは観光立国だが、飛行機の乗り入れや陸路での入国を一切、禁じている。そのため、ホテルやレストラン、土産物屋、タクシーなど、旅行業に携わる人たちは生計を立てる手段を失ってしまった。カトマンズにいても生活ができないため、田舎に帰った人も多く、カトマンズの人口は 30～40%減少したといわれている。

ネパール政府は、9 月 2 日からの国際線の運航再開を決定した。就労目的の人、すでに海外で仕事をしており一時帰国していた人などが優先的に許可されるとのことだ。渡航先は香港、バンコク、日本、アメリカ、ヨーロッパ、UAE、マレーシア、中国など。しかし、観光客の受け入れについては未だ見通しが立っておらず、経済悪化はより加速すると思われる。

■ネパール経済は、稼ぎ労働者の海外送金によっても支えられている。昨年度の海外送金額は 8,790 億ルピー（約 8,790 億円）と、政府予算の 7%弱を占めるほどだ。公式データによれば、正式な許可をとって出稼ぎにいっている人は 400 万人に上る。ところが、出稼ぎ先でも感染爆発が起こったため、数百万人の労働者が帰国を希望し、実際に約 4 万人が帰国した。その中には感染者も含まれており、故郷での感染拡大が案じられている。また、一気に帰国した数百万人の労働者を受け入れるだけの経済的な余力がネパールにはない。就業の機会がないから出稼ぎに行くのであり、帰ってきたところで生活は成り立たないのだ。

■コロナ禍により、社会的弱者はさらなる窮地に追い込まれている。もっとも打撃を受けたのは低所得者層だ。仕事を失い、困窮生活を強いられている。

人身売買の原因のひとつは貧困だ。人身売買犯罪に加担した人の大半はもともと普通の人だ。初めからプロだという人はほとんどおらず、暮らしに困って犯罪に手を染めたというパターンだ。

今後、生活苦から犯罪に手を染める人は増加すると思われる。女の子たちが児童労働、強制売春の犠牲者になる危険はさらに高まっているのだ。

【マイティの取り組み】

■こうした厳しい状況にある中、マイティは精力的な活動を続けている。当初、ネパールの感染者数はそれほど多くなかったため、マイティ本部の敷地内へ出入りする際、赤外線体温計による検温を義務付ける程度だった。しかし、急速に感染が拡大し、5 月下旬から全面的な立ち入り禁止の措置をとることにした。

■敷地内には本部はじめ、子どもたちの寮、保護された女性たちのシェルター、クリニック、テレサ・アカデミーがある。テレサ・アカデミーの生徒の半数はマイティの子どもたちだが、残り半分は近隣の低所得家庭の子どもを安価な授業料で受け入れ、その授業料を学校運営費に充てる仕組みだ。このテレサ・アカデミーは、現在、閉鎖中だが、同じ敷地内で生活するマイティの子どもたちには授業を行っている。しかし、教員が通勤できないため、通常どおりには運べない。スタッフや高学年の子どもが先生の代わりを務め、課題を与えて自習させる程度であるという。

■一般的なほかの学校においても苦難を強いられている。一時期、ネパールでもインターネット授業が行われた。しかし、通信インフラの整っていないエリアの子どもや、インターネット環境が整っていない家庭の子どもは授業を受けられない。それでは不公平であり、学力の差を生むという声があがり、インターネット授業は取りやめとなった。8 月下旬から、私立大学はインターネット授業を再開したが、大半の学校については再開の目途が立っておらず、多くの子どもの学業の遅れが案じられている。

■人身売買犯罪を防ぐため、国境での監視業務は極めて重要な活動だ。そのため、感染者数の顕著増加がみとめられなかった頃は、監視スタッフに感染予防策をレクチャーし、マスクと消毒薬を配布するなどして任務に就いてもらっていた。しかし、感染拡大に伴い、5 月下旬から活動を一時停止することにした。

国民の移動が制限されているため、人身売買犯罪も発生しづらい状況にある。しかし、移動制限が解除されれば、犯罪件数の増加が予想される。コロナが完全に終息するまでには長い時間を要すると思われるが、対策を講じ、1 日も早く活動を再開したいとのことである。

■制限の多い中、人身売買犯罪に関わる業務も継続している。たとえば、ニューデリーのネパール大使館の要請により、ミャンマーの国境近くの州で救出された 21 人の女性を保護した。中東への出稼ぎをアレンジするとの口実で連れ去られた女性たちである。マイティ本部は人の出入りを禁じているため、東ネパールのサッチガッタにあったかつてのホスピスに保護。状況が落ち着き次第、家族のもとへ送り届ける予定とのことである。

サッチガッタの旧ホスピスを一時的なシェルターとして活用

■前述のとおり、感染予防の面において、ネパールの生活習慣には問題点が多々ある。そのため、感染予防対策について、スタッフが専門家からオンラインでレクチャーを受ける機会を設けた。

■経済悪化に伴い、貧困家庭は日々の糧もままならない状況にある。そうした家庭の女性と子どもたちのために、6 月から「キッチンプロジェクト」を開始した。栄養価の高い食べ物を提供するというものだ。また、貧困家庭は概して、情報に疎く知識も不足しているため、感染予防に関する啓発活動とマスクや医薬品の配布も同時に行った。

地域行政と協力して行ったキッチンプロジェクト

正しいマスクの着用法も指導

■マイティに保護された後、仕事を得て自活している女性がいる。しかし、十分な教育を受けておらず、一定期間、売春宿という社会から隔絶された世界で生きてきた彼女たちの生活は決して楽なものではない。HIV/AIDS を抱え、ART 治療を受けている女性となると、健康上の不安が常につきまとう。

そうした女性たちに対し、マイティは抗 HIV 薬を配布している。その際、生活上の悩みや健康状態について聞き取りを行っているのだが、ロックダウンが続く中においても活動は継続された。

抗 HIV 薬は、服用を開始したら一生涯、欠かすことなく飲み続けなくてはならない。中断すればウイルスが薬に対する抵抗力を持ってしまい、薬でその増殖を抑えられなく危険があるからだ。制約が多いなか、本来の活動を継続してくれているマイティのスタッフに敬意を表したい。

【性犯罪の増加】

■ロックダウン期間中、家庭内暴力や性犯罪の確実な増加が報告されている。マイティはこれまでに、被害を受けた 24 人の少女と女性を保護し、4 人の女性の出産をサポート、124 人の女性にカウンセリングを提供した。

■一例をあげる。9 月上旬、ネパール西端のスドゥパシュチム・プラデーシュ州バイタディ郡の村で、15～5 歳の姉妹 6 人が保護された。夫婦仲の不和から、母親は数年前に失踪。娘たちは父親のもとで暮らしていたが、十分な食事も与えられず、ほとんど養育放棄の状態だったという。酒に酔った父親が暴力をふるうこともあり、姉妹はいつも怯えていたそうだ。そのうえ、一番上の娘は父親から性的虐待も受けていた可能性が高いという。

西部の街ダンガリーにはマイティの事務所がある。そこへ、姉妹を案じた近所の人が連れてきたというが、一時的な保護施設のため、カウンセリングや教育の提供などは行っていない。よって、マイティ本部に移送し、姉妹のケアにあたってほしいとの要請があったという。

しかし、マイティ本部には、HIV/AIDS や結核など、病を抱えた女性や子どもたちも生活している。姉妹の家はインドとの往来が多い地域にある。コロナ危機以降、出稼ぎ先から帰還した住民も少なくないため、姉妹が感染していないとはいいきれない。そのため、ダンガリーのマイティ事務所で２週間待機させ、健康状態に問題がなければ、マイティ本部に移動させる予定とのことだ。

■シャルミラ（17 歳）もまた、実の父親から性暴力を受けた。父親は定職に就いておらず、一家は貧しかった。シャルミラは一度も学校に通わせてもらえなかった。病弱な母親に代わって家事を担い、弟と妹を学校に通わせるために複数の食堂の下働きを掛け持ちして月 10000 ルピーを稼いでいた。その日、家には父親しかいなかった。突然、部屋に閉じ込められレイプされ、「決して誰にもいうな」と口止めされた。ネパールの家庭は父親が絶対的権力を持つ。シャルミラの家も同様であり、父親に逆らうことはできなかった。悲劇を誰にも打ち明けることができないまま時が過ぎた。事件が発覚したのは、彼女のお腹が次第に大きくなってきたからだ。母親に問い詰められ、シャルミラはレイプ被害に遭った事実を告白した。困った母親は近所の人の勧めでマイティに相談を寄せた。

マイティは即、警察に通報し、一家の事情聴取を行った。ロックダウン中、外部の人との交流は限られている。家庭内になんらかの問題があると考えた警察が父親を尋問したところ、犯行を自白した。

中絶可能な時期を過ぎていたため、シャルミラはマイティで出産した。かなり早産ではあったものの、母子ともに無事とのことだが、シャルミラが負った心の傷は計り知れない。今後もマイティで保護し、シャルミラに教育の機会を提供するとのことである。

シャルミラと赤ちゃん

■今後も家庭内暴力やレイプの被害者が救いを求めてくることが予想される。弱い立場に置かれている人たちを保護することがマイティの使命だ。リスクがあるからといって受け入れを拒否することはできない。そのため、アヌラダさんから次の支援を求められている。ひとつは PCR 検査キットの購入費だ。受け入れ段階で検査を行い陰性が確認できれば他の女性や子どもたちと一緒に生活してもらう。陽性であった場合は隔離病棟で療養してもらうという仕組みだ。現時点でも、結核患者のための隔離病棟が 3 つ設けられているが十分ではないため、増築費用の支援を求められている。

■ロックダウンによって、閉鎖的な生活を送るネパール市民。自由を奪われ、明日の暮らしがどうなるかもわからない状態は大きなストレスを生む。マイティの女性と子どもたちも、これまでどおりには職業訓練や学業を続けることができないため、気分の落ち込みがみられるようだ。

そこでマイティは、今年もティーズ行事を行うことにした。赤い衣装をまとい、神々に幸福を願う女性だけのお祭りだ。来賓を招かず、内輪だけのこぢんまりとした催しとなったようだが、ご馳走を食べ、歌やダンスで盛り上がり、ストレス発散できたとのことである。

ノリノリのアヌラダさんとスタッフ

シェルターの女性たちもダンスを披露

「日本人は来ていないのに、なんでお菓子がもらえるの？」と不思議そうな子どもたち

テレサ・アカデミーの女の子たちのかわいいダンス

少し遅れてしまったが、プレゼントにとびきりの笑顔を見せてくれた

■女性や子どもたちを励ますため、6 月、恒例のお菓子の詰め合わせをプレゼントした。外部の人の出入りを禁じているため、スタディツアーの際、コーディネートと通訳をお願いしているラジェンドラ・サッキャさんの家族にパッキングを担っていただき、マイティの正門前でスタッフに委ねるというかたちをとった。子どもたちを代表し、ホスピスメンバーのアーシャちゃんがビデオメッセージを寄せてくれた。お菓子詰め合わせプレゼント企画にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

今年度中に再度、お菓子プレゼントを行う予定です。引き続きのご協力をお願いいたします。

春日恵　國森佳子　佐藤佑介　篠原マリ
渋谷修　堤田芳和　三橋久子　（敬称略）

以上の方々から、計 93,000 円のご支援をいただきました。

子どもたちの健康状態は良好とのこと。ひと安心だ

【ヘタウダ・プリベンション・キャンプ】

■コロナ禍によって、生徒を呼び寄せることができず、プリベンション・キャンプの活動は停止している。マイティの活動が地域社会に認知され、縫製技術を学びたいと申し出る女の子たちが増えてきたところにあって、実に残念な状況だ。なにより、教育機会の損失は、女の子たちの未来を左右することになる。責任者のマヤさんによれば、「1 日も早くキャンプを再開したいのですが、ロックダウンが断続的に行われているので、いつから再スタートできるかわかりません」とのことである。

本来業務をまっとうできず、ストレスを感じているようだが、ただ待ち続けているわけではない。キャンプ近くの山々には貧困家庭が多くあり、ロックダウンによって仕事を失って、さらに厳しい暮らしを強いられている人たちが続出しているのだ。そのため、マイティ本部同様、食物やマスク、医薬品などの配給を行うことにした。行政の許可をとり、閉鎖中の学校の校庭を会場にして配給を告知したのだ。前述のとおり、保健衛生に関する知識が不十分な人が多いため、マスクの着用や手洗いの方法などをレクチャーするなど、感染予防に関するレクチャーも同時に行った。

感染予防のレクチャーを行うスタッフ

支援物資を配給

レスキュー・ファンデーション

■11 月 16 日現在、インドの感染者は 54,335,914 名で、アメリカに次いで 2 番目の多さとなっている。

地域別にみると、レスキュー・ファンデーション（RF）が本部を構えるムンバイがあるマハラシュトラ州が全体の 3 割弱を占め、最も多いとされている。次に南部タミル・ナードゥ州、そして RF の支部のあるデリーと続く。

インドは感染拡大を防ぐため､3 月 24 日から 70 日近くに及ぶロックダウンを行った。しかし、経済を優先し、6 月上旬から一部商業施設や大半の公共交通機関の運行を許可した。人が再び動き始めたことで感染拡大に拍車がかかったのだ。

とくに心配されるのが、貧困層が密集して住むスラムエリアだ。こうした地域には行政の支援が行き届かず、コロナに対する住民の理解も不足している。もともと衛生状態が悪く、非常に感染リスクが高い。スラムでウイルスがまん延すれば、スラム内だけでなく、住民が外部に感染を広げることになる。

市内に設けられた PCR 検査スポット

検温される通行人

■RF 本部は、ムンバイの北部、ボリバリという地にある。この地域には低所得者層が暮らすエリアが多くあるため、ムンバイの中でもとくに感染者数が多いとされている。よって、コロナ禍の影響を受け、厳しい生活を強いられている人たちの支援に乗り出した。5 月中は、ムンバイの貧困エリアの 1000 世帯と、売春街の 282 世帯に対し、衣類や食料、日用雑貨、医薬品などの提供を行った。デリーを加えると合計 7000 世帯を支援したとのことである。

ロックダウンにより、人々は屋内に留まることを余儀なくされた。結果、世界的に家庭内暴力が急増したといわれている。インドも同様だが、移動を制限されているため、被害者は外部に救いを求めることが難しくなってきている。支援物資を配布する際、家庭内に問題がないかどうか、注意深く観察することも行っているとのことだ。

ボリバリの RF 本部で行われた支援物資の配給

RF 本部から車で 2 時間。ターネ地区のシェルター周辺でも支援物資の配給が行われた

コロナ、HIV、結核を予防するためのレクチャーを受ける女性たち

■RF の施設には、常時 400～500 人の女性が保護されており、一部屋 6～8 人で生活している。そのうちのひとりがコロナに罹患すれば、感染拡大を防ぐのは至難の業だ。

そこで RF は、マハラシュトラ州エイズコントロール協会のプロジェクトマネージャーをシェルターに招き、コロナ、HIV、結核を予防するためのレクチャーをしてもらった。スタッフには施設内の予防対策を中心に指導を行い、女の子たちからはどのような点が心配かなどの声を拾って、個人レベルでできる予防法をわかりやすく丁寧に解説してくれたとのことだ。

インドは、HIV 感染リスクの高い国だ。そのため、施設の近隣住民を対象に、定期的に HIV 検査を行っている。しかし、コロナ禍にあるため、しばらく実施を見合わせていたのだが、この機会に、マハラシュトラ州エイズコントロール協会と提携する病院のサポートを受け、HIV テストキャンプを実施し、医師によるカウンセリングを行った。

HIV テストキャンプの様子

■感染拡大を防ぐため、当局から施設への訪問者を禁じるようにと指示があった。よって、職業訓練の講師などもシェルターに入ることができない。

しかし、リハビリのプロセスが中断されてしまうことは、なんとしても防がなくてはならなかった。RF には、シェルターの寮母やカウンセラーなど、住み込みで働くスタッフがいる。また、何日も帰宅せず、シェルターに寝泊まりして仕事を続けると申し出てくれたスタッフもいた。そうしたスタッフたちが、専門家や講師らとビデオ通話を行い、リハビリプログラムを継続した。また、帰る家がなく、長期間シェルターで生活している女の子もサポート役を務めてくれたという。

■レスキューされた女の子たちは、心身ともに不健康な状態にある。よって、医療ケアやカウンセリングを欠かすことはできないのだが、医療サービスへのアクセスや、カウンセラーを招くことが困難な状況にある。そこで、専門家とビデオ通話を行い、女の子たちのカウンセリングを行うことにした。直接的なカウンセリングと比べれば、十分とはいえないが、しばらくの間はこの手法で乗り切るとのことである。

■インドの売春宿では避妊が徹底されていないため、望まない妊娠が後を絶たない。レスキューした後に妊娠が判明するケースも少なくなく、なかには十代半ばで母にならねばならない女の子もいる。4 月上旬、そうしたうちのひとりである臨月の女の子が体調を崩し、複数回病院に連れて行かなければならなかった。もちろん、移動制限がある中、感染リスクを回避しながらのことであるため、相当たいへんだったという。しかし、スタッフたちの献身的なケアによって、無事に出産することができた。

■レスキュー活動は RF の重要なミッションだ。現在は思うように活動できない状況にあるが、コロナ問題が起きる前までは、積極的に売春宿に踏み込んで多くの被害者を救い出した。そのうちのひとつのケースを紹介する。

ラズィアは、バングラデシュの辺境の村の貧しい家庭で生まれた。この地域では今も児童婚が行われている。ラズィアも父親が決めた相手と 12 歳で結婚させられた。彼女の年齢の 3 倍も年上の男だった。

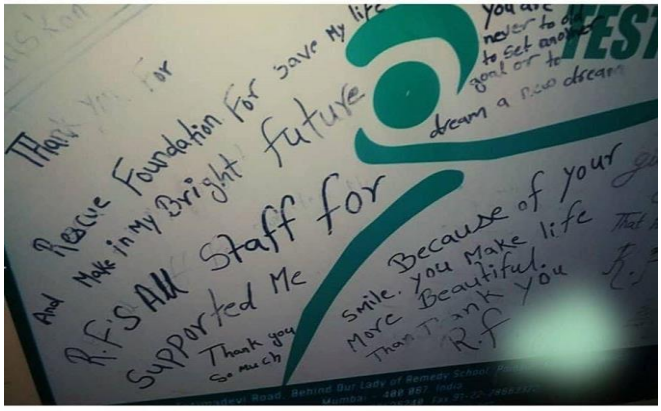
夫は暴力的だった。耐え切れず、嫁いでから 6 カ月後に婚家から逃げだし、姉夫婦の家に駆け込んだ。一旦は受け入れてくれた姉夫婦だが、しばらくするとラズィアに「稼いでこい」というようになった。そして、インドへ行くように命じ、悪徳業者の手を借りて密入国を手配させた。連れていかれた先はムンバイの売春宿だった。そして RF によって救出されるまでの 3 年間、客の相手をさせられた。

■売春宿から救出した女の子たちを、故郷に返すことも RF の大切な仕事のひとつだ。リハビリや裁判を終え、書類上の手続きが済んだところで帰還となる。女の子たちは、故郷に帰る日を指折り数えて待っている。しかし、コロナ禍の影響で、足止めされてしまった。ラズィアのように、故郷がバングラデシュのような異国の場合、さまざまな手続きに通常でも 1 年以上要する。

移動制限が緩和されるにつれて、徐々に移動の許可を得られるようになってきてはいる。が、感染予防の観点から、最低限の人数で動かなくてはならない。そのため、時間も労力も平時以上にかかるとのことだ。

施設を発つ際、女の子たちが寄せ書きを残していってくれるという。ほとんどの子が、RF の教育プログラムで習った英語で書くとのことだ。インドの準公用語は英語だ。バングラデシュにおいても、仕事を得る上で英語力の有無は重要である。

女の子たちの多くは、学校に通う機会に恵まれなかった。RF に保護されて学ぶ楽しさを知り、アルファベットを書けることが誇らしいのだ。1 日も早く移動の自由が確保され、女の子たちが故郷に帰り、勉強したことを社会で生かせるようになればと切に願っている。



帰郷を前に女の子たちが記した英語のメッセージ

【ブライダル基金プロジェクト】

■花嫁を望む男性と、RF が保護する女性の縁組を行う『ブライダル・プロジェクト』。この１年の間にも、４組の縁談がまとまったのだが、コロナ禍の影響により、挙式の日取りを決めかねている状況にある。

ラリグラスでは『ブライダル基金』を設け、嫁入り支度と挙式費用のカンパを呼びかけさせていただいている。今期も下記の方々から計 196,000 円のご支援をいただいた。状況が落ち着き次第、予定されている結婚式に充てさせていただく予定である。ご協力くださったみなさま、ありがとうございました！

伊藤芳樹　尾崎可奈　國森佳子　佐藤佑介
渋谷修　宗祥子　手島綾　藤田一彦
三橋久子　武藤禎　元田智子　匿名
（敬称略）

■3 月 24 日から 70 日近くに及ぶロックダウンを行った結果、インドの経済活動は停滞した。国際通貨基金（IMF）は、インドの 2020 年の経済成長率をマイナス 4.5%%と約 40 年ぶりの水準に落ち込むと予測している。インドは感染が止まらないなかでも景気を底上げするために経済活動を再開し、感染がさらに広がる悪循環に陥っている。インドの専門家の間では感染が落ち着くのは 11 月ごろになるとの見方もある。

しばらく現地に赴くことは不可能だ。今後の予定についても見通しが立たない。今、私たちにできることは、現地と緊密に連絡を取り合い、現状を十分に把握して、必要とされる支援を継続することに尽きるであろう。

コロナ感染を恐れ、客足が遠のいているため、売春宿は休業状態だ。しかし、感染拡大が落ち着き、人々の気持ちに緩みが生じれば、客はふたたび戻ってくるだろう。暮らしに困った貧困層がお金のために人身売買という悪事に手を染めるケースも増加すると思われる。

ネパール障がい者女性協会（NDWS）

【NDWS の概要と支援の経過報告】

ネパール障がい者女性協会（Nepal Disabled Women Society: 以下 NDWS）は、1994 年、障がいをもつ女性たちが中心となって立ち上げた組織で、カトマンズ盆地内にあるラリトプール郡ゴダワリ地域で活動を行っている。設立当初は、対象地域の障がいをもつ女性たちへの職業訓練などを行っていたが、現在は同地域の障がいをもつ子どもたちに焦点を当て、教育・リハビリテーション・アウェアネス活動などのプログラムを実施している。

NDWS の主な活動は以下の 3 つに大きく分けられる。

① 障がい児・その保護者に対するセミナーや研修会の実施
② CBR プログラム（地域中心型リハビリテーション・プログラム）の実施
③ デイケアセンターの運営

【コロナによる影響と NDWS の活動状況】

コロナによる影響を、NDWS も例外なく受けている。長引くロックダウンにより、NDWS の理事会はデイケアセンターを一時的に閉所することを決定した。そのため、子どもたちは家庭で過ごすことを余儀なくされている。障がいのある子どもは、心臓病やてんかん等の基礎疾患を併せもっている場合も多いため、特に感染には気をつけるよう、NDWS も保護者に注意喚起しているそうだ。しかし、石鹸による手洗いや消毒の習慣がなく、どのように感染を防いでよいかがわからない家庭も多い。そのため、ロックダウン直後に NDWS のスタッフがデイケアセンターに通う子どもたちの家庭を訪問し、石鹸や消毒液、マスクを配布して、手洗いの指導を実施している。また、家庭にいることで規則正しい生活の維持が難しくなる場合もあるため、保護者と本人へのカウンセリングも実施した。現在も、電話で定期的にフォローアップしている。

デイケアセンターに通う子どもたちの家庭訪問。ラリグラスがツアーの時に配布しているお菓子の詰め合わせも一緒に持参してもらった

NDWS は、ゴダワリ市と覚書を締結し、各村を訪問して、①障がいの啓発活動、②歩行器や車いす等の器具の提供、③障がい者の情報収集を実施していた。コロナの影響により、この活動も現在一時休止状態となっている。しかし、バグマティという村から予算を得ることができ、歩行器や車いすを購入、現在配布の準備を行っている。

ラリグラス・ジャパンからの支援金を活用して、ロックダウン中に障がい児・者の家庭に支援物資を提供した。村の自治体も、購入資金を負担し、36 家庭に以下の物資を配布することができた。

米25kg
豆
ジャガイモ
チュウラ（干し米）
油
砂糖
茶葉
石鹸
消毒液

支援物資提供時の様子

マヘンドラ君（右側）と NDWS のスタッフ

【マヘンドラ君の事例】

マヘンドラ君は、NDWS が長年支援しており、足に障がいがある。手術を経て学校にも通い、手に職をつけるために携帯電話の修理の職業訓練を受けようとしていたところ、腎不全となってしまい、透析を余儀なくされた。決して安くはない透析費用と薬代を支援してくださる支援者が見つかり、マヘンドラ君は週 3 日の透析を続けてきた。しかし、コロナの影響はマヘンドラ君にも及んでいる。病院は、コロナに感染した疑いのある外来患者であふれかえっており、透析は受け付けているものの、長時間待たねばならなかったり、いつもは一緒に入室できる家族の出入りが禁止されたりしているそうだ。また、ロックダウンがあったために、病院に行く道中で警察に止められたりすることもしばしば。また、家計を支えてきた弟がコロナの影響で職を失ってしまい、家族の生活も苦しくなっている。マヘンドラ君の透析をするためのシャントが感染症をおこしてしまったため、新たなシャントを入れる手術が必要となり、マヘンドラ君の家族は NDWS へと相談してきた。シャントの手術は緊急性が高かったため、NDWS は支援することを決め、無事にシャント交換の手術ができた。

イベント・その他の活動（2019年10月～2020年9月）

● 印刷・封入作業

2019 年 11 月 23 日（土）に飯田橋の東京ボランティア・市民活動センターにてレポート印刷・製本・封入作業を行った。皆さまで協力し合い手際よく作業を進め、無事に発送することができた。

2020 年 3 月 22 日（日）にはニュースレターの封入作業を行った。新型コロナウイルス感染症の流行により、この日の作業は当会理事スタッフのみで行った。

レポート作業の様子

● オンライン報告会の開催

新型コロナウイルスの影響でスタディツアーの開催もできなかったこと、ネパールとインドではどのような状況なのかという会員さんからの問い合わせが多かったことから、支援者の皆さんに現地の状況をお知らせするオンライン報告会を 8 月 22 日（土）に開催した。約 50 名の方に参加いただいた。マイティ・ネパール、NDWS、レスキュー・ファンデーションからのビデオメッセージとともに、代表の長谷川がネパール及びインドの感染者数やロックダウンの状況が人身取引に与える影響について報告した。質疑応答の後、時間の許す参加者には残っていただき、ビデオでお顔を拝見しながら近況報告を聞くことができた。

報告会の動画はラリグラス・ジャパンの Facebook から視聴いただくことができる。下記リンクより、アクセスしてぜひご視聴いただきたい。
https://www.facebook.com/watch/?v=1022513101541164&extid=tFu4y6AgJNLJtgw8

オンライン報告会の様子

● グローバルフェスタ JAPAN

毎年開催されてきた国内最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタ JAPAN」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2020 年の開催が中止となった。ボランティアの皆さまとお会いできる貴重な機会であるグローバルフェスタ。来年の開催を期待したい。

● 委託販売

ラリグラス・ジャパンでは全国各地にお住まいの皆さまに、マイティ・ネパールのホスピスやレスキュー・ファンデーションで作られた商品などを、委託販売という形でご協力をいただいている。2019 年 10 月～2020 年 9 月に委託販売をしてくださった方々は次の通りだ。

10 月 26 日（土）に行われた専門学校北九州看護大学校の学校祭では、中村早希さまほか有志の皆さまが販売にご協力くださった。2008 年から長きにわたり委託販売にご協力いただいている。

10 月 26 日（土）、27 日（日）に行われた早稲田大学本庄高等学院の学園祭・稲穂祭にて、有志の皆さまが販売にご協力くださった。早稲田大学本庄高等学院の皆さまには 2016 年より継続的にご協力いただいている。

静岡県の野田禮子さまは長年当会の活動にご協力くださっている。12 月 1 日（日）にご自宅で開催されたバザーで、ホスピスの女性たちが作ったビーズアクセサリーやネパールの雑貨を販売してくださった。

香川県の佐藤圭都さんは、様々な機会に当会の活動紹介や商品の販売を行ってくださっている。
皆さまのご協力に、心より感謝申し上げたい。

ラリグラス・ジャパンでは、マイティ・ネパールのホスピスで暮らす女性たちやレスキュー・ファンデーションの女性たちが作ったフェアトレード商品およびネパール雑貨を販売していただける方を募集している。新型コロナウイルス感染拡大によりイベントを開催することが難しくなっているが、状況が落ち着いた際には、皆さまのご協力をぜひお願いしたいと思う。

【委託販売ご協力のお願い】
○委託販売の流れ
委託販売のお問い合わせ
↓
販売見込みに応じたビーズ製品と
ネパール雑貨の送付（当会より）
↓
販売
↓
売上のご報告とご入金
↓
不良品／売れ残り商品のご返送
○価格や売上金について
販売価格は当会のイベント時の価格でお願いしています（価格がお客さま層と合わない場合等はご相談ください)。
送品・返品にかかる送料、ご入金の際にかかる手数料は当会が負担いたしますが、売上は全額当会にご入金願います。
またご希望の方には当会のパンフレット、ミニパネルを同梱させていただきます。
他にもご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。
皆さまのご協力、心よりお待ちしております。

2020年度決算

2019 年度　活動計算書(費用別報告書)

2019 年 04 月 01 日～2020 年 03 月 31 日(配賦)

特定非営利活動法人　ラリグラス･ジャパン　特定非営利活動に係る事業の会計

(円)

	科目	金　額		
1.経常増減の部				
(1)経常収益				
受取会費				
	正会員受取会費	280,000		
	賛助会員受取会費 －里親賛助会費(教育)	343,000		
	－里親賛助会費(教育＆生活)	626,000		
	－一般賛助会費	576,000		
	－学生賛助会費	6,000		
受取会費計			1,831,000	
受取寄付金				
	受取寄付金 －一般	9,292,442		
	－ブライダル基金	318,800		
	－洋服	137,800		
	－お菓子	128,226		
	－職業訓練	269,800		
	－テーラー開業支援	255,800		
受取寄付金計			10,402,868	
事業収益				
	普及･啓発事業収益 －ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾌｪｽﾀ(物版)	88,530		
	－委託販売	105,999		
	－ｽﾀﾃﾞｨﾂｱｰ	588,300		
	情報収集･情報提供事業収益 －書籍販売	1,028		
事業収益計			783,857	
その他収益				
	受取利息	17		
	為替差損益	20,313		
その他収益計			20,330	
経常収益合計				13,038,055
(2)経常費用				
事業費				
【その他費用】				

	マイティ本部運営費(寄付金支出)	96,720		
	ﾎｽﾋﾟｽ運営費(寄付金支出)	627,720		
	ｴﾝﾊﾟﾜﾒﾝﾄ支援費(寄付金支出)	230,000		
	NDWS 運営費(寄付金支出)	1,624,000		
	RF 運営費(寄付金支出)	3,000,000		
	ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙ支援費(寄付金支出)	500,000		
	テーラー開業支援	250,000		
	洋服代	3,876		
	お菓子	84,871		
	職業訓練	60,000		
	文房具	10,000		
	アーシャネパール運営費	72,000		
	材料費購入	85,714		
	ビーズ購入	28,474		
	寄付物品	92,066		
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾌｪｽﾀ	4,000		
	物品仕入・購入	77,728		
	現地イベント費	137,260		
	食費	96,042		
	通訳代	200,000		
	通信運搬費	78,586		
	会議費	3,160		
	宿泊費	333,451		
	旅費交通費	585,894		
	ｳｪﾌﾞｻｲﾄ運営	15,180		
	事務用品費	8,545		
	研修費	5,330		
	印刷製本費	15,890		
	支払手数料	694		
	為替手数料	22,500		
	送金手数料	13,004		
	雑費	73,369		
【その他費用計】			8,436,074	
事業費計			8,436,074	
管理費				
【その他費用】				
	通信運搬費	55,247		
	旅費交通費	1,006		
	消耗品費	3,108		
	事務用品費	3,300		
	N-Books 会計ソフト使用料	10,800		
	送金手数料	864		
	租税公課	1,260		
	為替差損	41,749		

雑費	732		
【その他費用計】		118,066	
管理費計		118,066	
経常費用合計			8,554,140
当期経常増減額			4,483,915
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益合計			0
(2)経常外費用			
経常外費用合計			0
当期経常外増減額			0
税引前当期正味財産増減額			4,483,915
当期正味財産増減額			4,483,915
正味財産期首残高			9,626,672
正味財産期末残高			14,110,587

書式第16号(法第28条関係)

2019年度　計算書類の注記

特定非営利活動法人　ラリグラス・ジャパン

1.　重要な会計方針

計算書類の作成は、N-Books(ネット帳簿)　によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法　棚卸資産無し

(2) 固定資産の減価償却の方法　固定資産無し

(3) 引当金の計上基準　退職給付引当金　無し

(4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理　無し

(5) 消費税等の会計処理　無し

2.　事業別損益の状況

(単位:円)

科目	国内事業	海外支援事業	事業	事業部門計	管理部門	合計
Ⅰ 経常収益						
1. 受取会費	1,831,000	0		1,831,000	0	1,831,000
2. 受取寄附金	10,402,888	0		10,402,888	0	10,402,888
3. 受取助成金等	0	0		0	0	0
4. 事業収益	783,857	0		783,857	0	783,857
5. その他収益	20,330	0		20,330	0	20,330
経常収益計	13,038,075	0		13,038,075		13,038,075
Ⅱ 経常費用						
(1) 人件費	0	0		0	0	0
給料手当	0	0		0	0	0
退職給付費用	0	0		0	0	0
福利厚生費	0	0		0	0	0
・・・・・・・・・						
人件費計	0	0		0	0	0
(2) その他経費						
会議費	3,160	0		3,160	0	3,160
旅費交通費	22,136	563,758		585,894	1006	586,900
通信運搬費	67,243	10,343		77,586	55,247	132,833
印刷製本費	15,890	0		15,890	0	15,890
スタディツアー	0	545,480		545,480	0	545,480
現地調査	0	429,115		429,115	0	429,115
イベント出展費	4,000	0		4,000	0	4,000
物品購入	77,728	0		77,728	0	77,728
書籍購入	0	0		0	0	0
N-Books会計ソフト ウエブサイト	15,180	0		15,180	10,800	25,980
消耗品	0	0		0	3,108	3,108
事務用品	8,545	0		8,545	3,300	11,845
送金手数料	1,698	34,500		36,198	864	37,062
為替差益	0	0		0	41,749	41,749
施設等評価費用	0	0		0	0	0
減価償却費	0	0		0	0	0
寄付金支出	0	6,630,854		6,630,854		6,630,854
その他	6,444	0		6,444	1,992	8,436
その他経費計	222,024	8,214,050		8,436,074	118,066	8,554,140
経常費用計	222,024	8,214,050		8,436,074	118,066	8,554,140
当期経常増減額						4,483,935
過年度損益修正益						
過年度損益修正損						
経常外増減額						0

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

内容	金額	算定方法

4. 使途等が制約された寄附金等の内訳

使途等が制約された寄附金等の内訳(正味財産の増減及び残高の状況)は以下の通りです。
当法人の正味財産は9,626,672円ですが、そのうち-1,694,808円は、下記のように使途が特定されています。
したがって使途が制約されていない正味財産は11,321,480円です。

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
ブライダル基金	-594,247	318,800	500,000	-775,447	
子供服	-82,200	137,800	3,876	51,724	
お菓子	-13,906	128,226	84,871	29,449	
職業訓練	187,000	269,800	60,000	396,800	
文房具	0	0	10,000	-10,000	
地震支援	21,545	0	0	21,545	
テーラー開業支援	-1,213,000	255,800	250,000	-1,207,200	
合計	-1,694,808	1,110,426	908,747	-1,493,129	

5. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産	0	0	0	0	0
車両運搬具					
什器備品					
・・・・・・・・・					
無形固定資産	0	0	0	0	0
・・・・・・・・・					
投資その他の資産	0	0	0	0	0
敷金					
・・・・・・・・・					
合計	0	0	0	0	0

6. 借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済
	0	0	0
合計	0	0	0

7. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
(活動計算書)	0	0
活動計算書計	0	0
(貸借対照表)	0	0
貸借対照表計	0	0

8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・ 事業費と管理費の按分方法

国内事業に係わる管理費用は国内事業に計上。それ以外は管理費に計上

・ その他の事業に係る資産の状況

その他の事業はありません

2019 年度　貸借対照表

2020 年 3 月 31 日現在

特定非営利活動法人　ラリグラス･ジャパン　特定非営利活動に係る事業の会計

（円）

科　　目	金　　額		
資産の部			
流動資産			
現金	1,464,741		
現金(外貨)	3,257,493		
普通預金	9,369,623		
立替金	75		
現金過不足	22,653		
流動資産合計		14,114,585	
固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			14,114,585
負債の部			
流動負債			
短期借入金	3,998		
流動負債合計		3,998	
固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			3,998
正味財産の部			
正味財産期首残高		9,626,672	
当期正味財産増減額		4,483,915	
正味財産合計			14,110,587
負債及び正味財産合計			14,114,585

2019 年度 特定非営利活動に係る事業の会計 財産目録

2020 年 3 月 31 日現在

特定非営利活動法人 ラリグラス･ジャパン

(円)

科　　目	摘要	金　　額		
資産の部				
流動資産				
現金		1,464,741		
--SI		699,414		
--MH		757,417		
--SU		7,910		
現金(外貨)		3,257,493		
--USD		353,989		
--NEPAL		2,852,842		
--India		46,251		
--THB		3,041		
--NEPAL(SI)		1,370		
普通預金		9,369,623		
--三菱東京 UFJ 銀行		1,839,454		
--ゆうちょ銀行		5,896,185		
--三菱東京 UFJ 銀行(NPO 法人用)		1,633,984		
立替金		75		
--その他		75		
現金過不足		22,653		
流動資産合計			14,114,585	
固定資産				
固定資産合計			0	
資産合計				14,114,585
負債の部				
流動負債				
短期借入金		3,998		
--その他		3,998		
流動負債合計			3,998	
固定負債				
固定負債合計			0	
負債合計				3,998
正味財産合計				14,110,587

監査報告書

監　査　報　告　書

令和 2 年 6 月 10 日

特定非営利活動法人
ラリグラス・ジャパン
　代表　　長谷川 まり子 殿

会計監査　門垣 裕子 ㊞

平成３１年４月１日から令和２年３月３１日までの貸借対照表、収支計算書、および付属する書類を監査した結果、正確であると認めます。

以上

2020年度事業計画

１．海外事業活動

（１）マイティ・ネパール

・テーラー開業支援

・フェアトレード・ビーズ製品の購入と技術指導

・エンパワーメント支援

・ホスピス、ヘタウダ施設運営支援

（２）レスキュー・ファンデーション

・ホスピス運営支援

・ブライダル支援

（３）NDWS

・デイケアセンター運営支援

（４）スタディツアー検討

※2020 年度は中止。春の調査は、ロックダウン解除後、ラジャさんに代行してもらう予定。
夏以降、状況が好転していれば、長谷川が調査に赴く予定。

（５）商品仕入れ検討

※夏以降、長谷川が現地調査に行ければ仕入れ可能。無理な場合は、在庫分で対応。

２．国内活動

（１）広報活動

・ホームページ運営

・報告書・パンフレット印刷

・SNS サイト運営

・書籍販売

・Facebook 広報の活用

（２）イベントの参加とフェアトレード商品の販売

・グローバルフェスタ参加、ほか

（３）委託販売

（４）財政基盤の強化

・会員・里親会員の継続会員のフォローと新規会員の拡大推進

・寄付・募金活動の実施

・助成金申請の積極推進

（５）プロジェクト活動

・ビーズ製品新デザインの検討

・現地からの報告書などの文書翻訳（英文→和文）や（和文→英文）など

（６）勉強会・講演会の開催

・ラリグラス・ジャパンの活動や現地 NGO の現状、ネパール・インドの社会状況などについて理解してもらうことを目的とし、勉強会・講演会を開催。

※コロナの状況を鑑みると、今年度の招聘事業は負荷。ZOOM を活用し、報告会を開催。

以上

会員・寄付者リスト

（敬称略）

【会員】

2019 年 10 月から 2020 年 9 月の間に会員（継続も含む）になってくださった皆さまのお名前

《正会員》

秋山佳子　石川重美　伊東浩一　上原翔子　門垣裕子　亀尾麻彩子　下窄あゆみ　須賀加奈
高橋国和　高橋奈美江　高柳ユミ　長江さをり　中嶋野香　長谷川まり子　林亜紀子　武藤禎

《里親賛助会員》

阿部真里子　石原正行　伊藤芳樹　宇田川江美　大田多恵　奥井眞佐子　小野浩司　尾花好恵
笠原礼子　木村良枝　工藤節子　國森佳子　櫻井るり香　佐藤圭都　渋谷修　鈴木樹代子
宗祥子　高橋多美子　瀧口修薫　土居裕見子　轟木元枝　西部徹　西堀喜則
野口みどり　林和夫　平井英津子　平野善之　前澤洋子　松永一夫　丸山竹士郎
水上直樹　宮田泰司　持田季未子　元田智子　山田千恵

《一般賛助会員》

青井博　秋山洋子　生田卍　石渡裕康　稲葉資郎　今村久美子　上原準　江口敏
大黒やより　大関順子　大野国貢　岡部陵佳　小澤弘江　小俣富美香　春日恵　加藤光子
角谷三樹子　金田敦子　木谷招子　木藤陽子　久保田明人　倉田春香　坂本淳子　志賀素子
渋谷真理子　島村京子　下田伸子　鈴木明子　竹内淳子　千葉幸子　中野陽子　名田文子
西野章男　野口恵里花　橋本篤　長谷川隆三　藤音晃明　藤城裕子　松岡静枝　松本聡子
水﨑朋子　三谷理　峰﨑はなこ　三原一夫　村上隆男　森谷里美　吉田久美子　吉田茂

《学生会員》

浅野友里　石澤知世　栗本賢　白戸二花　関智美　高田茉那
永尾一晟　増田花凜

【寄付をしてくださった皆さま】

（2019 年 10 月～2020 年 9 月）

秋山洋子　天井希　阿守優美　石澤香里　石原正行　伊藤芳樹　稲葉資郎　今村久美子
上田朋子　上中美穂　漆原万里子　近江京子　太田進　大野国貢　岡部陵佳　尾崎可奈
小野寺一彦　賀川浩明　笠井育子　春日恵　加藤光子　金井京子　神谷学　木藤陽子
國森佳子　久保田明人　久保田節子　桑田真由美　古賀ミチ　小手川弘子　齊藤幸一
坂本淳子　坂谷内勝明　櫻井るり香　佐藤圭都　佐藤佑介　篠原マリ　渋谷修　下田伸子
須賀加奈　スズカタツジロウ　鈴木重男　関谷朱桜実　瀬谷直子　宗尚子　高橋多美子
タカマスタダシ　竹林早苗　田中裕美　田邊浩一　田邊暢子　千葉幸子　堤田芳和
手島綾　ドウトレイ紗都子　轟木元枝　永尾渉　中野陽子　西堀喜則　野口恵里花
橋本篤　橋本成一　橋元尚美　林和夫　平野善之　廣原麻美　福原匡伸　藤田一彦
別府浩一郎　前澤洋子　マザーハウス　俣野美代子　松山眞理　丸山竹士郎　武藤禎
村上隆男　元田智子　山口泰正　山下真奈　横田眞二郎　吉田久美子　吉田茂
レストランブーケ　匿名

【ボランティアとして活動に参加してくださった皆さま】

（2019 年 10 月～2020 年 9 月）

秋山佳子　石川重美　上原翔子　渋谷真理子　鈴木明子　高柳ユミ
手島綾　中嶋野香　長谷川まり子　林亜紀子　武藤禎

【活動にご協力くださった団体・皆さま】

（2019 年 10 月～2020 年 9 月）

株式会社風の旅行社　株式会社光文社　佐藤圭司　手島綾

【理事・役員】

理事

長谷川まり子	代表
秋山佳子	渉外（info メール）担当
石川重美	会計・会員名簿・ホームページ担当
上原翔子	NDWS・各種補助金申請担当
亀尾麻彩子	商品管理・イベント・ビーズプロジェクト担当
下窄あゆみ	商品管理・イベント・ビーズプロジェクト担当
須賀香奈	NDWS 担当・里親会員・年間スケジュール管理担当
高柳ユミ	翻訳チーム・渉外（info メール）・各種補助金申請担当
中嶋野香	会計・渉外（info メール）・各種補助金申請担当
林亜紀子	里親会員・翻訳チーム・各種補助金申請・NDWS 担当

監事　門垣裕子　武藤禎

会計監査　門垣裕子

顧問　間部俊明（弁護士）　朏博一（税理士）

評議員　高橋国和　新倉元彦　三谷理

会員・寄付者リスト

※本誌記事および画像の無断転用を禁じます。